

# 教育事業等個別報告書

事業名	教育臨床のための大学連携会議
趣旨	事業の参加者や長期宿泊学習の児童生徒と関わり合う教育支援スタッフの教育臨床のため、大学と連携会議を行う。
期間	平成24年 1月22日(日)
参加者	明石要一氏(千葉大学教育学部 教授) 田村綾菜氏(昭和女子大学心理学科 助教授) 千葉昇氏(国士舘大学文学部 准教授) 初澤敏生氏(福島大学人間発達文化学類 教授) 前田寿紀氏(淑徳大学総合福祉学部 教授) 松本敏氏(宇都宮大学教育学部 教授) 水谷修氏(東北学院大学教養学部 教授) 吉川成司氏(創価大学教職大学院 教授)
① 事業の特色	
長期宿泊体験学習(セカンドスクール)等で必要となってくる大学生の教育支援スタッフを育成し、長期宿泊体験学習を実施する団体の支援体制を整える必要がある。そこで、当所で活動可能な大学生の通学する関東及び東北地区にある大学のカリキュラム担当教官または教務課担当者、ボランティア担当教官との連携強化を図りながら、学生が当所で活動しやすい環境を作るための連携会議を実施した。	
② 事業の成果と課題	
<p>&lt;事業の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>セカンドスクールを紹介するDVDをもとに説明したことで、初めて参加された教官等にセカンドスクールのよさを理解してもらえた。</li><li>学生との事後反省会や教育支援スタッフレポートにおいて「貴重な体験をさせていただいて、本当に良かった。」「学校の先生になりたいと改めて思った。」「また、来年度も教育支援スタッフとして関わりたい。」との感想がありセカンドスクールが有意義な事業であることを担当教官等に理解してもらえた。</li><li>セカンドスクールだけでなく、他の事業において社会教育実習やその他の実習を検討する担当教官の考えも聞くことができた。</li></ul> <p>&lt;事業の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>各大学の実習期間とセカンドスクールの日程が重ならないため、また、授業の単位習得に出席日数が厳しく関わるため、学生にとって参加しにくい状況がある。</li><li>ボランティア活動を単位として認める動きも出てきたが、まだ検討の余地があり、別の実習(教育援助体験など)として何とか公欠扱いができるよう大学側に働きかけていく。</li><li>セカンドスクールの中学生版についても今後検討してほしいとの意見が出された。</li></ul>	
③ その他	
<ul style="list-style-type: none"><li>来年度は、9月下旬に1小学校がセカンドスクールを実施する予定になっており、学生が支援スタッフとして参加しやすい状況が考えられるので、学生への働きかけがしやすくなる。</li><li>セカンドスクールのよさが十分理解できたので、今後、年度初めのオリエンテーションや説明会に参加して直接学生に働きかける機会を持ちたい。</li></ul>	